

氏名： 小玉 重夫 (KODAMA Shigeo)  
所属： 人間文化創成科学研究科人間科学系  
学位： 博士 (教育学) (1997 年度、東京大学)  
Ph.D. in Educational Theory (The University of Tokyo)  
職名： 教授  
専門分野： 教育思想 /Educational Thought  
URL： <http://www.li.ocha.ac.jp/hss/edusci/kodama/>

#### ◆研究キーワード / Keywords

公教育思想 / ハンナ・アレント / 再生産理論 / シティズンシップ教育 /  
Philosophy of Public Education / Hannah Arendt / Reproduction Theory / Citizenship Education

#### ◆主要業績

総数 (9) 件

- ・小玉重夫「学校選択と政治概念の転換」『教育の理論のためにー理論的応答』、pp.39-58、田原宏人・大田直子編、全 256 頁、世織書房、2007 年 5 月
- ・小玉重夫「大人への回路を開くーペダゴジーの再構築へ向けて」『学力とトランジションの危機ー閉ざされた大人への道』 pp.183-199、耳塚寛明・牧野カツコ編、全 206 頁、2007 年 12 月
- ・小玉重夫「書評・宮寺晃夫著『教育の分配論ー公正な能力開発とは何か』」『教育哲学研究』第 95 号、pp.124-129、2007.5.
- ・小玉重夫「教育基本法第 14 条 政治教育」浪本勝年・三上昭彦編『「改正」教育基本法を考える』北樹出版、pp.89-92、2007.7.
- ・小玉重夫編『報告書 教育研究の「失敗」』独立行政法人日本学術振興会人文・社会科学振興プロジェクト研究領域 I-②「失われた 10 年」の克服ー日本の社会システムの再構築プロジェクト研究「日本の教育システム」研究グループ：教育研究の「失敗」サブグループ報告書、全 168 頁、2007.10.

#### ◆研究内容 / Research Pursuits

現代の教育思想を中心に研究している。私たちがふだん自明のものとしてうけいれられている「教育」や「学校」を、歴史的・構造的な視点から問い直し、そのうえで、教育改革の筋道を、特に公共性の視点から追及していくことを研究課題としている。当面は、基礎的研究として、教育の公共性について思想的な視点から解明することに取り組み、また、応用的、実践的研究として、新しい市民を育てるシティズンシップ教育の課題に取り組んでいる。

My research field is educational thought, and I am mainly concerned about the obviousness of the "education" and the "school", which I try to deconstruct from a historical and structural viewpoint.

In order to do this, I set two research strategies, one is basic and the other is applied and practical. The basic research theme is about the publicness of education focusing on the historical context of educational thought. The applied and practical research theme is about the citizenship education for bringing up a new citizen.

## ◆教育内容 / Educational Pursuits

### 学部教育：

文教育学部教育科学コースで、教育思想に関する専門科目を担当している。2007年度の演習（ゼミ）では、国家と教育の関係をテーマとした文献や、シティズンシップ教育に関する文献などを取り上げた。また、卒論では、ヴィゴツキーの思想を扱った論文、教師の専門職性の問題を取り上げた論文等が提出された。学部教育ではこのほか、教職課程を担当した。

### 大学院教育：

博士前期および後期課程で、教育思想に関する授業を担当している。2007年度の演習（ゼミ）では、教育における政治と権力の問題を、ミクロとマクロの視点から複眼的に検討することを課題とし、特に公共性やシティズンシップ（市民性）をめぐる最近の研究動向を取り上げ、ジョルジョ・アガンベン、ハンナ・アレント等を検討した。

Faculty education: As the exercise in the 2007 fiscal year (seminar), we discussed by taking up the literature on the theme of the relation between nation state and the literature about citizenship education, etc. In faculty education, I am also concerned with the education and the management of the teacher-training course.

Graduate-school education: As the exercise in the 2007 fiscal year (seminar), we examined the problem of the politics and power in education from the various points of view, taking up the theory of Giorgio Agamben and Hannah Arendt.

## ◆研究計画

教育の公共性に関する基礎的な研究として、戦後にアメリカで活躍したハンナ・アレント（1906-1975）の思想を教育問題との関係で位置づけ直す作業を行っており、将来的にはそれをまとめていきたいと考えている。また、教育の公共性に関する思想研究と、シティズンシップ教育に関する実践研究とをつなぐために、主要業績に記したような研究成果をもとに、学力問題を切り口として、大人と子どもの関係を再構築する視点を提起する著作を準備中である。

共同研究としては、・日本学術振興会人文・社会科学振興プロジェクト研究、お茶の水女子大学附属幼・小・中学校（文部科学省開発指定校研究）、お茶の水女子大学グローバル COE「格差センシティブな人間発達科学の創成」などに参加した。

## ◆メッセージ

教育の諸問題を幅広い視野から理論的にとらえ直すことが、教育思想のおもしろさだと思います。とかく自明なものとして受け入れられがちな「教育」＝「善きもの」というとらえ方を、いったんは相対化したうえで、教育実践の困難性と可能性を過不足なく追究していくことを、当面の研究課題としています。

大学という空間が持っている知的な「遊び」の可能性に、ぜひ期待して欲しいと思います。